

◆新技術定着試験事業

モズク種採苗及び寒天保存実証試験（本島北部地区）

水産業改良普及センター本部駐在 中村勇次

1. 目的

県水産業改良普及センターからのモズク培養種の配布は、平成23年度で終了することから採苗講習会や養殖現場への採苗技術の移転を進めている。今後は、漁業者自らが母藻から採苗して寒天保存ができる技術を習得し、培養種を拡大していくことができるよう支援する必要がある。北部地区においては、本部漁協を採苗及び寒天保存実証試験の重点地区として指導を行った。

2. 方法

本部漁協モズク養殖生産部会員とともに実証試験を実施した。北部地区では、6月3日にモズク種採苗及び寒天保存講習会を実施し、その後、本部漁協モズク養殖生産部会の定例会と併せて培養講習会を実施した。本部漁協には、中古で購入した人工気象器(インキュベーター)が2基あることから、これを利用して寒天保存及び小規模の液体保存を実施した。

3. 結果

6月24日に本部漁協モズク養殖部会員を対象にしたモズク培養講習会を開催した。寒天培地への種取りと寒天培地の植え継ぎの実習を行なった。

8月4日に本部漁協モズク養殖部会員を集めて寒天培地からの拡大培養及び寒天植え継ぎ作業を実施した。6月に本部漁協で植え継いだ寒天から3株を拡大培養へ移行した。拡大培養のついでに、新しい寒天への植え継ぎ作業も行った。

8月16日に本部漁協の人工気象器の培養液を交換した。フラスコ壁面に種が付着してきた

ことから、内容液を捨ててフラスコを水道水で洗浄してから新たな培養液を入れた。

8月22日に本部漁協モズク養殖部会で購入する顕微鏡について真栄田参事と調整。見積書は2業者から提出されており、同価格であった。沖縄県に支社がある猪原産業に注文することにした。

4. 考察

本部漁協では、名誉指導漁業士の我部政祐氏がモズク培養を高いレベルで実施しているが、その技術がうまく引き継がれていない。

我部氏と同じ健堅の国吉氏が我部氏から指導を受けており、本部地区での中心的役割を担う人材として指導したい。

本部漁協モズク養殖部会では、数年前に人工気象器を中古で購入した。顕微鏡を導入したことからより高いレベルでのモズク採苗を実施していきたい。

8月4日に拡大した3種類のモズク培養種は、壁面から剥がれて順調に拡大されている。人工気象器から各自のモズク培養施設にて拡大培養を行い、1月から種付けを行い、1月後半から沖出しが行われている。



本部漁協での寒天保存実証試験の様子